

# 甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

令和5年2月3日（金）作成

校長 長谷川 佳代 記述者 職名 教頭 内藤 賢

学校教育目標 楽しい学校（楽校）の創造ーやる気 こん気 げん気ー

学校経営の具体的取組

- ・「生きる力」をはぐくむ、教育課程の編成と実施
- ・「確かな力」をはぐくむ、わかって楽しい授業の創造
- ・思いやりの心や情操を培い、「豊かな心」を育む、居心地のよい学校（集団）の創造
- ・たくましく生きるための「健康な体」を育む、健康・安全な生活と環境の創造
- ・「信頼される開かれた学校づくり」の推進

## 1 全体評価

○自己評価の結果は、高い水準にあるといえる。

- ・全39問中、38設問で肯定的評価（A・B）が90%以上となった。今年度も教育活動全体的に高い自己評価の数値となった。しかし、「ICTの効果的な活用」で否定的評価（C・D）16%となり、また、A評価が12%と低くなっていることから、ICTの「効果的な活用」に教師が不安を持っていることがわかる。

○児童アンケートの結果では、学習状況で肯定的な結果が見られるが、他の設問に心配な面が見られる。

- ・「授業が楽しいか」「先生はよく勉強を教えてくれるか」「国語・算数の授業内容はわかるか」のA・B評価の割合が、甲斐市全体の割合に比べてとても高くなっている。  
学習における授業者と児童の信頼関係が良好であることを示していると考える。
- ・家での学習時間が、昨年度より肯定的評価の割合が高い結果となっていることから、家庭学習強化週間や日々の自主学習等の取り組みとご家庭でのご協力の成果が表れている。
- ・「朝ご飯を食べて登校しているか」のCD評価が11.3%となり、昨年5.4%から大幅に増えている。
- ・「夢や希望を持っているか」のCD評価が13.9%（甲斐市全体13.7%）となり、昨年13.2%からやや増えている。

○保護者アンケートの結果では、肯定的評価が90%以上の設問が23問中13問ある一方で、「わからない」と回答する割合が一定数ある。

- ・「相談できる友だちがいるか」で、わからない16.4%、「学校はまちがった行動に指導しているか」のわからない7.9%、「相談できる先生がいるか」のわからない8.4%、「学校は、学校以外でもあいさつするように指導しているか」のわからない10.3%となっている。
- ・「お子さんと本を読んだり、図書館へ行ったりしている」は、A10.4%、B20.4%、C31.5%、D30.4%、わからない7.3%という結果になった。

## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

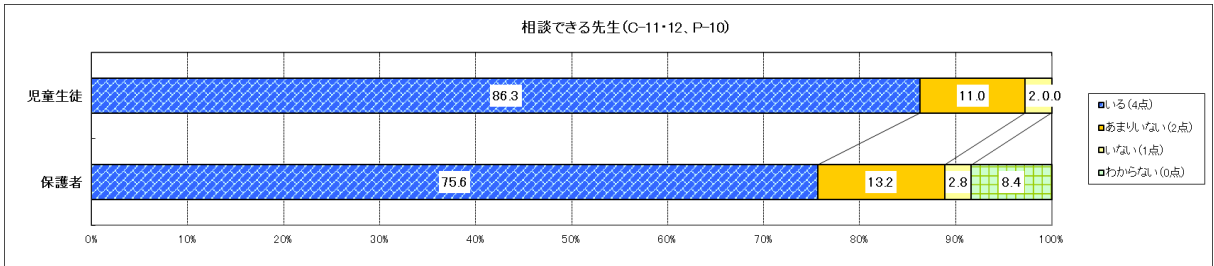
- 学校教育目標・学校経営についての自己評価5設問中すべてにおいて、肯定的評価（A・B）100%となっている。
- ・「2 学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」については65.7%と、昨年度（61.3%）に引き続きAの数値がBより大きい結果となっている。また、「5 児童の具体的行動目標を意識して教育活動を行っている。」は、昨年度のA評価は

	30%だったが、今年度は45.5%となり改善傾向にある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長より、年度始めや学期始め、職員会議、運営委員会等で学校経営方針に基づいた確認を常に行い、教頭が補佐することで、組織が常に共通認識で教育活動に取り組めるようにしている。組織が共通認識で取り組むことで教育効果を高めるので、今後も同様に取り組んでいく。</li> </ul>

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

- 8設問中6設問で肯定的評価（A・B）が100%となったが、課題として次の項目が挙げられる。
- ・「1 危機管理マニュアルを理解している。」は、A評価が28.6%であり昨年度より低下している。
  - ・「4 報告、連絡、相談、確認を行っている」は、AB評価で100%となっているものの、報告及び確認が確実に行われなかった事案もあったので、この数値に安心することなく今後も報告～確認を確実に行っていきたい。
- 8設問中2設問でC評価があった。内容については次の通りである。
- ・「6 校務支援システムを十分活用できている。」は、昨年度AB評価で100%だったが、今年度は6.7%がC評価回答だった。
  - ・「7 業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」は、5.9%がC評価回答だった。
- 学校運営に関わる保護者アンケートの結果は、概ね昨年度よりAB評価の数値が上がっている。
- ・「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」はAB評価で94.9%となり、昨年度同様にご理解をいただいている。
  - ・「4 学校日より、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」はAB評価で90.7%となり昨年とほぼ同じだが、A評価が昨年度の9%から15.8%に上がった。一方、CD評価が8.3%となり、昨年度の10%とほぼ同様となっている。
  - ・「5 学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている。」のAB評価は、昨年度の78.7%から、今年度は86%となった。
  - ・「6 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」のAB評価は94.9%と、昨年度の94.3%と変わらない。コロナ前のように実施できていないが、感染症対策を講じながらの実施にご理解をいただいている。
  - ・「10 相談できる先生がいますか。」のA評価は75.6%であり、昨年度の74.7%とほぼ同じであるが、否定的回答の割合が約16%（昨年度同様）であり、改善を必要とする。また、相関関係でみると児童と保護者にずれがある。

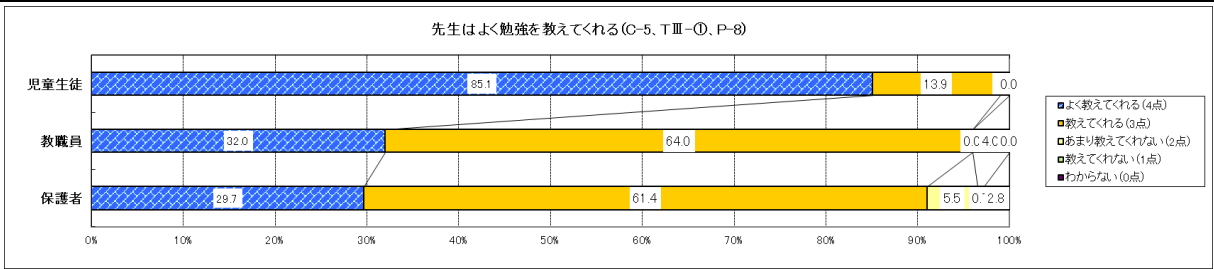
達成状況



改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルは、学校の実情に応じて内容を常に見直す必要があるため、必要事項を修正した。教育課程全体ファイルの中に入れていたが、使いやすく、また、必要に応じて記入できるよう独立して専用の冊子とした。</li> <li>・組織対応が必要な場合に、報連相は文書で行い、共通確認を徹底する。その上で窓口を一本化して職員によって伝える内容に違いがないようにする。</li> <li>・校務支援システムについては、本格的に運用を進めているので利用していないとわかりづらい。打ち合わせの方式をPC上の掲示板入力方式にしたこと、旅行や休暇申請等を個人スケジュールに反映したこと、個人データのやりとりをメッセージ機能で行っていることなど、しばらく全体で利用しながら使い慣れるようにしていく。ただし、PCがない非常勤職にとってはわかりにくい部分が残る。</li> <li>・ゆとりある部分が教育を保障している部分があるので、効率ばかり重視していると優れた教育ができないが、教職員に求められる業務量が限界を超えているため、効率化を図っていかなければならない。教育の充実と教職員の心身の健康の両立が現状では難しいが、あたりまえと考えている部分から考えていく必要がある。アクションシートに基づいて取り組み、今後も教職員の意識改革を続ける。</li> <li>・コロナ下で学級担任と保護者のコミュニケーションが不足しがちなため、今後もこまめな電話連絡等により信頼関係を構築する。また、担任と保護者が対面で話ができる機会（学年部会等）を確保し、話ができる関係づくりを進める。</li> <li>・ホームページで児童のようすを画像で紹介する回数を増やし、おたよりも精力的に出しているため、CD評価の割合が昨年から変わらない理由がわからないのが正直なところである。学年部会等でどんなことをおたよりやホームページで紹介してほしいのかを聞く機会をとる。</li> </ul>
-----	---

### Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況	<p>○自己評価では、7設問中5設問でAB評価が90%以上となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「4 ICTを効果的に活用した授業を行っている。」では、A回答が12%のみとなっており、CD評価も16%となっている。「効果的に使う」とは、これまでの授業実践との最適な組み合わせを表すことから、タブレットを使えばよいのではなく、これまでの実践による教育効果をタブレットでより高めることはできているかということになる。したがって、タブレット活用の実践研究が途上の現段階では、まだ難しいというのが実情である。本校でも実践研究を進めているところである。</li> <li>・「7 ALTと連携して、児童が興味関心を持つような外国語活動を行っている。」については、英語専科教師が主導してALTと授業を行うために学級担任はサポート的な立場になるので、A回答が低くなっている。</li> </ul> <p>○保護者アンケートでは、「9 お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。」のAB評価が86.2%で、昨年度と同様の結果となっている。</p> <p>○児童アンケートでは、「4 学校の授業は楽しいですか。」のAB評価が93.2%で、昨年度と同様の結果となっているが、A回答の割合は4.6%上がっている。その一方でCD評価が6.8%（20名）いることを重視しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「5 先生はよく勉強を教えてください。」はAB評価が99%となったが、教職員、保護者との意識のずれがある。</li> </ul>			
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>【設問4】</p> <p>甲斐市全体：竜王南小</p> <p>A 47.1 : 55.8</p> <p>B 42.4 : 37.4</p> <p>C 7.5 : 4.1</p> <p>D 3.0 : 2.7</p> </td> <td style="border: none; text-align: center; padding: 0 20px;">【設問5】</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>甲斐市全体：竜王南小</p> <p>A 79.2 : 85.1</p> <p>B 18.9 : 13.9</p> <p>C 1.6 : 1.0</p> <p>D 0.3 : 0</p> </td> </tr> </table>	<p>【設問4】</p> <p>甲斐市全体：竜王南小</p> <p>A 47.1 : 55.8</p> <p>B 42.4 : 37.4</p> <p>C 7.5 : 4.1</p> <p>D 3.0 : 2.7</p>	【設問5】	<p>甲斐市全体：竜王南小</p> <p>A 79.2 : 85.1</p> <p>B 18.9 : 13.9</p> <p>C 1.6 : 1.0</p> <p>D 0.3 : 0</p>
<p>【設問4】</p> <p>甲斐市全体：竜王南小</p> <p>A 47.1 : 55.8</p> <p>B 42.4 : 37.4</p> <p>C 7.5 : 4.1</p> <p>D 3.0 : 2.7</p>	【設問5】	<p>甲斐市全体：竜王南小</p> <p>A 79.2 : 85.1</p> <p>B 18.9 : 13.9</p> <p>C 1.6 : 1.0</p> <p>D 0.3 : 0</p>		



・児童アンケート「6 国語の授業内容はわかりますか。」は、AB評価が96.6%, CD評価が3.4%(10名)となった。  
 また、「7 算数の授業内容はわかりますか。」は、AB評価が95.6%, CD評価が4.4%(13名)となった。

国語	算数
甲斐市全体：竜王南小	甲斐市全体：竜王南小
A 54.2 : 59.9	A 56.4 : 58.7
B 39.4 : 36.7	B 35.1 : 36.9
C 4.9 : 2.0	C 6.8 : 4.1
D 1.4 : 1.4	D 1.7 : 0.3

- ・「9 授業でわからないことを先生に聞いているか。」は、AB評価が86.1%だが、A評価が48%と、昨年度の37.6%より10%以上増えた。授業者と児童の信頼関係が深まっていることと授業への意欲が高まっていることの表れと言える。
- ・「17 学年の目標時間の勉強をしていますか。」はA45.1%(昨年40.6%), B43.1%(昨年36.2%), C8.5%(昨年19.5%), D3.4%(昨年3.7%)と、目標時間勉強ができる児童の割合が増えていることがわかった。

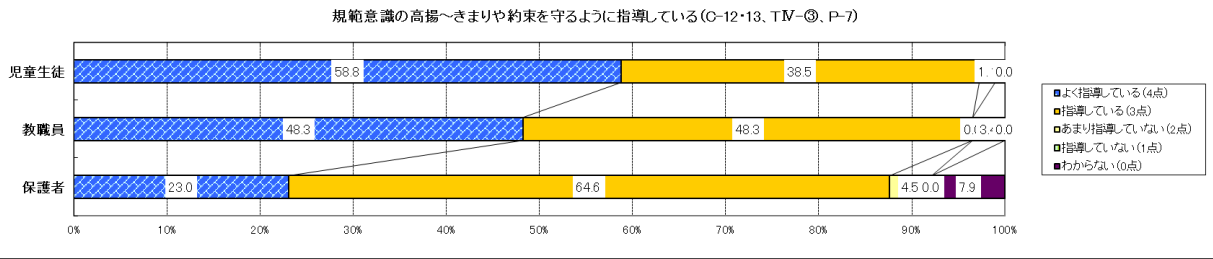
改善策

- ・主体的・対話的で深い学びへの授業改善が求められている。個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けて、校内研で共通認識を持って取り組んできている。また、管理職による教職員同士の学び合い、授業観察も進めている。児童アンケートの結果が、肯定的評価が高いことは我々にとって嬉しいことなので、これを励みにして今後も授業改善に努めたい。
- ・タブレットの活用は、低学年担任と高学年担任とでは当然違いが出る。学級担任が、担当する学年が変わってもタブレットを活用できるように、今後も研修や学び合いを進めていく。

IV 生徒指導について (児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

達成状況

- 生徒指導についての自己評価は、すべての設問でAB評価が90%以上となった。
- ・「4 キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている。」では、A回答の割合が18.2%と、他の設問に比べて低くなっている。小学校のキャリア教育は基盤形成の時期であり、小学校低学年では、学校生活に慣れる・身の回りの事象への関心・自分の好きなことを見つけて活動すること、中学年では友達と協力して深める・自分の持ち味を發揮し、役割を自覚すること、高学年では役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得すること・集団の中で自己を生かす・自らの夢や希望をふくらませることであり、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力の育成にあることを、研修を通して理解を深めていき実践につなげていきたい。
- 規範意識の指導については次のグラフのようになっていて、A回答において児童と保護者に開きが見られる。保護者には、「わからない」との回答も一定数あるので、学校での指導のようすが伝わっていないことも考えられる。



改善策

- ・ 生徒指導提要在改訂され、生徒指導の定義が、「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」となった。生徒指導という、今までの認識では「問題行動があった時の対応」のようにとらえがちだが、「させる指導」から「支える指導」となり、特に、「発達支持的生徒指導」として児童生徒の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えるように働きかけること」が求められている。すでに様々な場面において「児童が自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」を行って来ているが、全職員が生徒指導としての認識も持って取り組む。
- ・ 今後も学級経営を充実させてお互いに認め合える雰囲気をつくったり、自己肯定感を高める取り組み行ったりする。
- ・ 生徒指導上の困難な課題は、組織対応で行う。そのための報連相を徹底する。

V 地域との連携について

達成状況

- 自己評価6設問で、AB評価が90%以上だった。
- ・ 「1 教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」で92.9%のAB評価となっている。コロナ下で制限ある状況でもできる限り行っているととらえるか、コロナ前と比較して現状でできていないととらえるかで評価が分かれるが、コロナ前と比較して考えるのは適切でないとする。
- ・ 「3 たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」は、自己評価がAB評価で100%となり、特にA評価が87.5%となっている。学校長からの学校だより及び学年・学級だよりが定期的に発行されていること、ホームページでの授業や活動の様子紹介により、広報は充実しているとするが、保護者アンケートの結果ではAB評価が90.7%、CD評価が8.3%（わからない1%）となり、認識にやや違いがある。
- 保護者アンケート「11 PTA活動に参加していますか」の肯定的評価が71.3%と昨年とほぼ同様の結果となっている。コロナ下で参加できる活動が制限されていることが影響していると考えられるが、今年度は体育着リユース活動が始まったり、運動会のテント設営や片付けへのご協力の広がりがあったりと、昨年度より充実した活動ができている部分はある。また、PTA関ブロ大会への参加もありがたかった。

改善策

- ・ 「ウイズコロナ」として教育活動も行われていくようになるため、今までの制限がなくなっていくと思われるが、学校は集団生活の場なので、地域との連携も必要な感染症対策をとりながら行っていく。
- ・ コロナ下で保護者の来校機会が少ないため、おたよりやホームページで様子を伝えることには力を入れてきている。今後もできる限り伝えることで信頼関係を深めたい。
- ・ PTA役員になる前は活動に消極的だったが、役員さんになってPTA活動のよさを理解できた方もいる。今年度は、制限された中でも特に協力的な雰囲気で活動できたと思うので、保護者と学校の負担にならない範囲でより充実した活動をつくっていききたい。

<b>VI 学校の特色に関して</b>	
達成状況	<p>○学校の特色の4設問すべてでAB評価が100%になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1 児童会行事に進んで取り組むよう指導に努めているか。」は、コロナ下でも感染症対策をしてできる範囲で児童会活動を行ってきた結果と考える。</li> <li>・「2 教室環境づくりに努める」「3 児童が自分の考えを発表できる指導」「4 朝読書・朝学習の充実」については、校内研究「対話により考えを広げ深める授業改善」とも関連して、学校全体で組織的に指導をしてきている成果が出ているととらえる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の状況によって児童会活動の規模を考慮しながら実施してきた。やはり児童の縦のつながりが深まるとともに、6年生の学校行事への参加意欲が高まり社会性が身につくので、児童会本部の企画を大切に、教職員も協力していきたい。</li> <li>・今後も竜王南小の教育として、組織的に取り組む。学級担任の意識が継続できるように、他学年、他学級の取り組みの様子を知り、互いに刺激し合える機会を持つ。</li> </ul>
<b>VII 創甲斐教育について</b>	
達成状況	<p>○創甲斐教育の3設問すべてでAB評価が100%になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1 基本的言語事項の習得」「2 自己を振り返り表現できる」については、校内研究で「OPPシート」という学習振り返りシートを児童が記述する指導を中心として、各学級で日記等を書かせることも行ってきたことから言語活動が活発になっているととらえる。</li> <li>・「3 外遊びや縦割り班活動に進んで取り組む」では、特に外遊びで、中休みや昼休みに児童と一緒に遊ぶ教師が何人もいることがありがたいと感じている。遊ぶことが児童と教師の信頼関係を深めている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙を増やす学習や日記等のひとまとまりの文章を書く取り組みを各学級で継続して行っている。また、OPPシートの効果も確認されているので、今後も続けて行く。振り返って書くことで経験・学びを頭の中で整理し再認識するため、認識力が身につく。認識する力が高いほど生活が豊かになることを教師が理解して取り組んでいく。</li> <li>・休み時間には保護者への連絡帳の記入や欠席児童への対応、学級事務もしなくてはならないので、外で子どもたちと遊ぶことを強要できない。しかし、遊ぶことで児童との信頼関係を深めているので、教職員が、今後もできる範囲で遊ぶ機会をとってもらえるとありがたい。</li> </ul>
<b>3 まとめ</b> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の自己評価では、すべての項目において、肯定的評価（A・B）が高く、全体的に達成できている。校長の学校経営方針の下に、全教職員が学校教育目標達成に向かって共通理解をして教育活動にあたっていることが確認できた。また、児童・保護者アンケートにもその成果が反映され、ご家庭でのご理解とご協力をいただいていることが確認できた。</li> <li>・昨年度の課題となっていた家庭学習時間と授業改善については、取り組みの成果が表れている。また、おたよりやホームページの充実も進められている。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート結果に表れた、「夢や希望を持っているか」のCD評価が1割以上いることを重視し、教職員が、そのことを常に意識して教育活動を行っていくこと。</li> <li>・効果的な学習指導や働き方改革のために、タブレット端末等、ICTの活用について、皆で学んでいくこと。</li> <li>・ウイズコロナにおける安心・安全な教育活動と地域との連携の推進。</li> </ul>	